

## 委員会メンバー

臨地実習先責任者 北海道社会事業協会帯広病院 看護副部長 田岡佳子

臨地実習先指導管理者 北海道社会事業協会帯広病院 臨床指導 寺西亜砂美

講師代表 中島節子

学校 教務部長 加藤由美

## 2023年度自己点検・自己評価に基づいた委員からの意見

I 教育理念・教育目標
教育理念を軸とした方針について学生に伝え続けていると思う。また元々学生の志も高いと思われる。生命や人間の持つ可能性を信じる、人を大切にしたいという教育理念が学生に浸透していると学生を見ていて伝わる。教育理念が学生の軸になっているのではないかと。3年間を通じて一貫性ある教育をされていると思われる。学生は素直に学習に取り組む姿勢があり看護師になりたいという気持ちが伝わってくる。
II 教育目標
教育目標に理念との一貫性があるため、目標をクリアできるような学びができていますと感じます。学生と関わると良い看護師になるなど感じる。ディプロマポリシーに向かい様々な体験・学びの中から目指すべき姿を学生はイメージができていますのだと考えます。
III 教育課程経営
先生方と話をしている中で、先生方が一人ひとりの学生と向き合っているのが分かる。教員間でも教授方法をすり合わせ効果的な学習になるよう共有できているのではないかと感じる。 講義中の学生の反応を見ていると実習の体験が反応良く返ってきているので、いい体験ができていないかと思われる。患者さんと真摯に向き合う体験ができていますのだと思います。病院と教員の協力体制、また教員と学生の関係性も良いと思われる。支援体制が構築され実習での学びが深められているのではないかと考えます。指導者が卒業生になってきていることも多く、より連携が深められればと感じる。
IV 教授・学習・評価課程
評価が妥当であると思います。 委員より：GPAでの評価方法では何を目的としているのか → 学校：誰かと比べるというのではなく、自己の目標値になる。できるだけ数値化して、1年次の数値を上回るよう目標を設定していけるように学生に周知したいと考える。
V 経営・管理課程
委員より：教育理念・目的達成のための権限や役割機能の明確化の評価が低い状況とあったが、Iでは理念・目的を確認できているので乖離があると感じた → 学校：教員間での意思統一が必要。経験年数によつての差が出たのかもしれない。建設的な意見交換ができるようしていく。 メンタルサポートはできていると思う。学生の表情を良いと感じ、また先生方に学生のことを聞くと配慮しているのだと感じる。カウンセラーが入っていることも学生にとって良いことである。HPも見やすく問題ないと思われる。

## VI 入学

今後の学生確保は難しくなっていると思います。大学や養成校増えるなかで、学校の良さをもっと伝えてほしい。進学していることや国家試験全員合格など学校の強みを伝える。新聞社からの取材なども活用し学校の魅力をもっと知ってもらえたらいいのではないかな。

## VII 卒業・就職・進学

進学も数名おり評価できる場所である。国家試験の合格率をみても学校全体として取り組んでいると思います。この強みを入学にもつなげていけたら良いのではないかな。ただ看護学校での学びは国家試験合格のためではなく、あくまでも看護師になるための学びであることを学生に伝え、看護師になってからも学び続けていくことは今後も伝えていくべきである。卒後のサポートについては相談できる環境を整えてほしい。現場での悩みが分かれば学生の指導にも反映できるのではないかな。看護学生時代に培った自分の中に大事にする看護の思いや看護の本質を捨てないような看護師が育ってほしい。現場が大変なのは良くわかると学校側は受け止めていくと良いのではないかな。

## VIII 地域社会・国際交流

看護師としての地域活動を進めていくことが今後も多くなっていくと思うので、人々を地域で支えるためのどのようなあり方が良いか学べていくと良いのではないかな。

委員より：国際交流は難しいのではないかと感じた → 学校：評価が低いので、今年度 JICA に国際看護の講義を依頼していきたいと考えている。

## IX 研究

普段から教員間で研究的思考を持ちながら、テーマに沿って話すなど、情報共有だけでなく、各教員の成長に繋げて頂きたい。